

謝 辞

平成 24 年度も、市町をはじめ関係者の皆さんの協力を得ながら事業を進めることができました。感謝申し上げます。

情報交換のための会議では、各市町や関係団体から、取組状況を報告いただき、情報を共有することができました。また、研修会では多くの専門家の方々から先進事例や有意義なアドバイスをいただいたことにより、適切な対応や先の見通しを持つことができました。

新潟県からは、平成 24 年 8 月以降延べ 4 人の中堅保健師を派遣していただきました。各種ミーティングでの助言、健康調査の分析・要フォロー者の選び出しのほか、新潟中越地震時の対応事例なども提供してもらい、市町支援をより充実することができました。新潟県、樋口さん、波田野さん、五十嵐さん、飯塚さん、ありがとうございました。

また、平成 24 年度は、震災対応について、他県の自治体の研修会や、専門職団体の全国大会などで事例報告の機会をいただきました。当所にとって、震災以降の取組を、情報発信することができましたとともに、いろいろな視点から振り返る機会になりました。

仮設住宅等での生活の長期化により課題になってきている生活不活発病対策にしても、保健・医療・福祉分野に止まらず、まちづくり、農林・水産・商工、社会教育などの部門の協力が必要であるように、今後、被災地支援活動には関係機関の機能的な連携がますます重要になっていくと考えています。

平成 25 年度以降も、関係機関の皆さんのご協力をお願い申し上げます。

宮城県東部保健福祉事務所長 渡辺 達美